

交換留学（派遣）帰国報告書

.....
留学先大学：西オーストラリア大学
留学先での所属学部・研究科：Arts
留学先での在籍身分：Cross Institutional (Exchange) Undergraduate
留学期間：2015年2月～2015年12月
神戸大学での所属学部・研究科：法学部・法律学科
学年（出発時）：3
本報告書記入日：2015年12月20日

1. 留学先大学について

1-1. 留学先大学の「学期」について

学年開始月日：2月23日

学年終了月日：11月22日

学期：

① 2月23日～6月21日

② 7月27日～11月22日

③ 月 日～月 日

④ 月 日～月 日

1-2. 留学先大学の特長、人気のある分野等

International studentが4割近い国際色豊かなキャンパスです。もともとは理系学部が有名な大学だそうです。

1-3. 留学先大学のサポートについて記入してください。

語学面でのサポート：

HUMA1901など英語が第二言語の学生向けのユニットが設定されていました。

勉学面でのサポート：

Studysmarterというサポートがあります。エッセイの添削だけでなく英語のブートキャンプや数学のサポートもありました。

精神面でのサポート：

Student centralにはカウンセリングサポート制度があり、無料で相談をうけることができます。

住居・生活面でのサポート：

Student CentralにはHousing support officeもあり、ホストファミリーとの問題やbond等の金銭トラブルでも法的アドバイスをもらうことができます。

課外活動のサポート：

Guildという部活動のようなものがあり、学期の始めにO-dayで部紹介のお祭りがああります。

1-4. 神戸大学の所属学部・研究科にて「単位認定」を申請する予定ですか。



はい



いいえ

2. 住居

2-1. 住居についてアドバイスを含め自由に記入してください。（気をつけること等）

寮：大学に近く、友達が出来やすく理想的な英語環境です(アジア人留学生がかたまっている印象も受けました)。その反面学生が多いため落ち着きがない、共用スペースの衛生状態が気になるかもしれません。家賃が一番高いです。
 ホームステイ：英語環境ですし、家族のようなサポートを受けられます。時にその「家族扱い」が忌々しく感じたり、優位に立てられていると感じることもあるかもしれません。金銭トラブルが起こる可能性も踏まえ、必ずエージェントを通じたほうがいいでしょう。
 ハウスシェア：一番自分のペースで暮らしやすい環境です。家事自炊が全て自己責任になりますが独り暮らしに慣れている人にとっては一番快適かもしれません。ですが、一緒に住む方によって快適さが大きく左右されます。住居エリア(サバーク)の治安、同居人の雰囲気も踏まえ、検討してください。契約の詳細を文面化すること、bondとrentのレシートをしっかりと受け取るようにしましょう。

3. 生活について

3-1. 保険について

どのような種類の保険に加入したかを教えてください。

OSSMA一体型海外旅行保険 13万円（予約手配がOSSMAの電話ででき、日本語医療が無償で受けられるので安心です。医療だけでなく損害賠償、機体遅延や盗難補償も全てついてます。）

また、現地で加入した保険があれば、ご記入ください。

留学生Visaをとる上でOSHC \$ 618(キャッシュレスの病院もありますが、基本は払い戻し式の保険のようです)に加入させられます。

3-2. PC（パソコン）について

PCの保有の状況： 日本から持参した 現地で購入した 保有しなかった

住居内のインターネットへの接続の可否： 接続できた 接続できなかった

住居内でインターネットに接続していた場合、プロバイダー、料金等について記入してください。

住んでいた家は全てwifi使用料込の家賃でした。

大学でのPCの使用の可否： 使用できた 使用できなかった

大学でPCを使用していた場合、施設の場所や日本語環境等について記入してください。

図書館に多くパソコンが設置されていました。日本語入力はできませんでした。

3-3. 医療について

留学中に病院に通いましたか。医療費等について記入してください。

OSSMA一体型保険を使用したためキャッシュレスで診察してもらいました。

健康管理あるいは衛生面について特に注意すべきこと。

2月に最初に着いた頃は一年で一番暑い時期です。無理せずゆっくり体を慣らしてください。それ以外にも日焼けと乾燥は一年中気を付けたほうがいいでしょう。

3-4. 銀行口座について

留学先でお金を引き出せるように、どのように準備・手続きしましたか。

日本で新生銀行の口座(送金手数料が安い)を開通してから行きました。その後ついでにANZの口座を作って親にその口座へ送金してもらいました。

3-5. 異文化体験について

留学先の文化・社会（習慣の違い等）について記入してください。

意外にもオーストラリア人は保守的です。現地学生は高校時代からの友人といふことも多いようで、自分から話しかけないと厳しいかもしれません。日本語を学んでいる学生さんであれば興味を持ってくれるので友達になりやすいです。Japsocは日本語を学んでいる学生さんが多いので友人作りには最適です。

大学外の現地の人々と、どの程度コンタクトをもちましたか。

基本的にありませんでした。

課外活動（ボランティア、インターンシップ、アルバイト等）をしましたか。

ボランティアとしては、マラソン大会、日本子ども祭りの運営サポートスタッフをしました。それ以外にも大学のSpring Feastの運営団体に所属していました。2学期から日本語を教えるバイトをしていて、生徒と仲良くなったのでとても楽しかったです。

留学先の「町」についてコメントがあれば、記入してください。（安全性、外国人への態度等）

海外にしては治安はいい方なのかもしれませんが、やはり夜間の一人歩きはしない方がいいです。住居地区によって大きく治安が異なるため、家さがしの際は地価(高い方が治安がいい)、現地生徒から治安情報を得てしっかり検討してください。

3-6. 留学期間中に就職活動をしましたか。就職活動をした場合、教えてください。

特になし

4. 経費について

4-1. 奨学金を受給していた場合、奨学金についてご記入ください。

(財団等名) JASSO, 7万 円/月

5. アドバイス及び感想

5-1. 現地で参考となった留学先国の情報（出版物、ホームページ）を記入してください。

日本語情報誌：experth, Perth expressなど
サイト：パース通信、日豪プレス、gumtree
本：地球の歩き方、地球の歩き方留学編

5-2. 日本から持参すると良いと思われるものがあれば、記入してください。

電子辞書、薬、化粧品、コンタクトなど個人的にこだわりがあるもので海外では手に入らないもの。日本食品店が増加傾向にあるため、100均で買えるものなどは高くはなりますが持って行かなくても大丈夫です。

5-3. 留学することによって得られたことについて記入してください。（語学力の向上、キャリアパスの明確化、異文化理解等）

※ 語学力については、差し支えの無い範囲で、留学前と帰国後の客観的な指標を教えてください。

留学前：() 点→帰国後() 点

語学は知らないうちに伸びていたのだと思います。帰国してから英語を話すスピードが上がっているとされました。また、英語で受けても面白かった授業は本当に興味を持っている分野だと思うので、自信を持ってください。

5-4. 振り返ってみて、何が最大のトラブルでしたか。

ホストファミリーとの金銭トラブルです。書面で交わした契約書がなく、エージェントも通していなかったため、退去したいと言っても急に告知期間(notice)が足りないと言われ、ボンド(敷金のようなもの)を返金しないと言われました。結局UWAのハウジングオフィス、西オーストラリアのユース法律サポート窓口から法的アドバイスを受け、あくまで冷静に対応するよう努めました。最終的には\$600のボンド中\$200は返されず、シーツ破損の賠償、電子レンジの買取までさせられました。エージェントを通さなかったのと、契約体系をしっかりと文面にしていなかったのが反省点です。シーツの破損に関しては賠償保険が適用されたので保険にはしっかりと入っていた方が良いでしょう。

5-5. 留学前、留学期間を通じて、神戸大学のあなたへのサポートは適切でしたか。神戸大学への要望があれば記入してください。

基本的に神戸大学側はUWAの入学手続きの書類はサポートしてくれます。ですが、それ以外の送金、ハウジングなど生活全般においては全て自分で調べることとなります。先輩や留学フェア等で情報収集してください。

5-6. 本留学プログラムを後輩に薦めますか。薦める場合・薦めない場合ともに、理由を記入してください。

薦めます。まず留学に関わることを自分でリサーチしないといけないのでリサーチ力が身に付きます。また、海外で住むうえで一回は大きな壁にぶつかるでしょう。それを乗り越えた時に大きな自信がつかめますので、頑張って乗り越えてください。

5-7. 留学全体を振り返って、以下の質問に答えてください。

(5段階評価、5が最も高い評価、1が最も低い評価)

- ・留学先大学の授業の「質」(内容, レベル等)に満足しましたか: 4
- ・留学先大学の学生サービスに満足しましたか: 4
- ・留学先の住み心地(安全性等)に満足しましたか: 3
- ・住居の「質」(広さ, 料金等)に満足しましたか: 2
- ・全体として留学に係る費用は安かったと思い、満足しましたか: 2
- ・神戸大学の留学に係るサポートに満足しましたか: 2
- ・留学全体の総合的な評価: 4

授業について

留学中に履修した授業について記入してください。

No.	コース名	教授名	時間数 ／週	留学先 での単 位数	履修し ている 学生数	予習、復習、テスト等についてアドバイスも含めて教えてください。
1	HUMA1901 English Language and Academic Communication I	Penny Hawken	3	6	90	とにかく課題の量が多くて地味にしんどいです。ライティングとプレゼンが中心です。テスト期間より早めにはずらしてFinal Examをしてくれるので留学生に配慮はしてくれているようです。
2	MUSC1310 Communication Skills in Music	Alan Lourens	2	6	100	特に予習はありませんが、簡単な課題が時々出されます。グループワークもあり、個人的には友達もできたので受けて良かったと思います。
3	MKTG1107 Consumers Around the World	Julie Lee	3	6	多数	基礎知識がなくても大丈夫です。統計データベースの使い方や各地域ごとの消費者行動について学べるので興味深いです。中間考査はネットであったのですが8割は事前に問題が明示されていたので、しっかり授業に出ていればついていけるかと思います。
4	LAWS1120 Australian Legal Principles and Institutions	Kate Offer, Peter Sinden	3	6	多数	毎週小テスト、チュートリアルの事例問題の予習があり、リーディングも多いです。時間がかかる科目ではあると思います。ですが、小テストとチュートリアルさえ出していれば40%はもらえるので試験で残り10%取れば一応単位はあると思います。
5	ASIA3002 Issues in Japanese Society and Culture	Romit Dasgupta	3	6	100	日本の現代の問題に切り込んでいく授業です。明治維新以降の歴史を振り返り、日本人の考え方や価値観のルーツも探りました。チュートリアルでは日本人として発言を求められることが多いのでチャレンジングです。また2000ワードのリサーチペーパーはなかなかハードでした。
6	LAWS1111 Law, Conflict and Change	Tamara Tulich	3	6	多数	法社会学の授業です。オーストラリアの法体系、文化、原住民との問題に踏み込みます。法学部の授業なので評価基準は厳しめです。エッセイも多いです。
7	LAWS2309 Work and the Law	Joanna Vincent	3	6	100	労働法の授業です。ガッツリ法学の授業なので1学期で法学を取っていないと厳しいでしょう。2年の科目だけあって内容量も多いですし課題も2000ワードと重かったです。
8	MGMT1135 Organisational Behaviour	Belinda Allen	3	6	多数	ビジネス系の学部の必修科目とだけあってかなり人数が多かったです。内容は組織内のマネジメントについてで、チュートリアルも実験的なものが多く面白かったです。
9						
10						

授業（カリキュラム等）のクラスのサイズ、成績評価、現地学生の取り組み等

1年の科目は基本的に人数が多いです。そして学年が上がっていくとともに、人数も減り、難易度が上がります。法学部の科目は基本的に成績評価が厳しいですし、1年でもかなり難しいので頑張ってください。基本的には現地学生より留学生の方が一生懸命頑張っていたような気がします。

費用について

留学期間を通して必要だった費用を記入してください。（概算で結構ですので、円価で記入してください。）

・航空運賃：15万（変更等あり）

・住居費：（月額） 8万 ×（留学月数） 10 ヶ月 = 80万

・食費：（月額） 4万 ×（留学月数） 10 ヶ月 = 40万

・保険料：13万

・その他：休暇中の旅行 15万 など

合計： 約170万 （留学期間全体の費用）

その他 自由に記入してください。（800字〜）

一年の留学生生活を終えて日本に帰ってきたとき、最初に感じたことは「やりきったぞ！」という達成感でした。海外の大学で勉強することはもちろん、一人暮らしも初めてだったので慣れないことも多かったのですが、無事に帰って来られたときは本当に嬉しかったです。現地で生活していると楽しいこともたくさんあります。ですが、当然乗り越えなければいけないことも多いです。個人的には勉強はもちろん、生活面でも乗り越えるべきことが多くありました。

まず勉強面に関しては、とにかく英語で読む量、書く量、話す量が全て多くなります。正直帰国子女の私でも、現地学生と同じ授業を受け、課題をこなすのはハードでした。特に私は法学の授業を受けていたため、読む量が他の学部と比較しても多いようでした。法学の授業を海外の大学を受ける（特にコモンロー制度の国の）場合は、日本語である程度その国の法について予習しておいた方が授業についていきやすいと思います。また、エッセイを書く量が多くなります（法学部生の場合、普段は期末テストのみのような学生生活を送ってきた方が多いと思いますので、最初はギャップが大きすぎてしんどいです）。レファレンス（引用）の間違いや盗用はかなり厳しく追及されるようなので、1年生の授業を受けてしっかり対策してください。エッセイはしんどくてもとにかく踏ん張ってください！一年間の留学を終え、今まで書いてきたエッセイを見返してみると英語力が伸びたな、と改めて実感しました。

次に、私にとって大きなハードルとなったのは生活面でした。実は私は寮、ホームステイ、ハウスシェアと全て経験しました。特に大きな問題となったのはホストマザーとの金銭トラブルでした。引っ越しする前のnotice（告知期間）が短すぎると言われ、bond（敷金礼金のようなもの）を返却しないとされました。ですが文面上の契約がなく、明確な合意や契約の状態を示すものをホストマザーが作成していなかったため、私は納得がいきませんでした。結局学校のhousing officeや若い人向けの法的サポート機関に電話をして法的なアドバイスをもらい、あくまでも私は冷静に交渉しました。結局一部はかえって来ませんでしたが、黙って諦めなかったことや、現地の法を用いてきちんと自分で論拠つけて反論したことは自分にとって大きな自信となりました。やはり海外で暮らしていると差別や理不尽なこともあります。ですが、それから逃げずに自分にできることはやってみてください。OSSMAやUWAのオフィスなどサポートしてくれる機関はいくらでもありますから。

結局、私から言えることは「あきらめずに踏ん張って！」ということです。胸をはってやりきった！と達成感を感じて、日本に帰って来られる方が増えるよう応援しています。